

平成25年度教育研究活動報告書

氏名	平山直樹	所属	芸術文化学部日本文学科
学位	博士（文学）（広島大学）	職位	講師
専門分野	英語の歴史研究		

I 教育活動	
本年度担当科目	
学部	TOEIC I、TOEIC II、応用英語 I、応用英語 II、上級英語 I、上級英語 II
大学院	英語学特論
II 研究活動	
これまでの主な研究業績（5件まで）	
（1）〈学会発表〉「『パストン家書簡集』におけるsince」、日本英文学会中国四国支部第66回大会 於 山口大学、2013年10月19日。	
（2）〈論文〉「『パストン家書簡集』におけるME THINKS」、尾道市立大学日本文学論叢第8号、pp. (1)-(18)、2012年12月。	
（3）〈論文〉「名詞節を導くthatの省略について—『パストン家書簡集』におけるTHINK—『英語教育への新たな挑戦—英語教育内容学の視点から』、pp. 205-17、英宝社、2010年7月。	
（4）〈論文〉“Epistemic Adverbs in the Paston Letters,” <i>English Philology and Stylistics: A Festschrift for Professor Toshiro Tanaka</i> , Edited by Osamu Imahayashi and Hiroji Fukumoto, pp. 59-71, 溪水社, 2004年12月。	
（5）〈論文〉“The Language of Requests in the Paston Letters: The Grammaticalization and Subjectification of X PRAY Y,” 広島大学英文学会『英語英文学研究』第46巻, pp. 25-43, 2002年3月。	
本年度を含む過去3年間の研究業績	
（1）〈書評論文〉“Juan M. Hernandez-Campoy and J. Camilo Conde-Silvestere, eds. <i>The Handbook of Historical Sociolinguistics</i> . Chichester: Wiley-Blackwell, 2012. xxx+674 pp.,” 広島大学英文学会『英語英文学研究』第58巻, pp. 43-55, 2014年3月。	
（2）〈論文〉「15世紀イギリスの手紙を読む—パストン家の手紙に着目して—」、尾道市立大学芸術文化学部日本文学科『尾道文学談話会会報』第4号, pp. (17)-(41)、2013年12月。	
（3）〈学会発表〉「『パストン家書簡集』におけるsince」、日本英文学会中国四国支部第66回大会 於 山口大学、2013年10月19日。	
（4）〈論文〉「『パストン家書簡集』におけるME THINKS」、尾道市立大学日本文学論叢第8号、pp. (1)-(18)、2012年12月。	
（5）〈学会発表〉「『パストン家書簡集』における理由を表す接続詞」、日本中世英語英文学会第28回全国大会 於 広島大学、2012年12月2日。	
現在の研究テーマ（3つまで）	
（1）『パストン家書簡集』における英語の歴史的研究	
研究テーマの進捗状況	15世紀の英語で書かれた手紙を集めた『パストン家書簡集』の言語特長を歴史的に研究している。その一環として、現在は理由を表す副詞節に着目している。昨年度（2012年12月）に接続詞becauseに導かれる理由節について研究発表を行い、今年度（2013年10月）には接続詞sinceに導かれる理由節についての研究発表を行った。今後は他の接続詞まで視野を広げるとともに、これまでの理由を表す接続詞に関する研究のまとめにとりかかりたい。
学会、所属団体における活動（本年度を含む過去3年間の研究業績）	
所属学会・所属団体 役職等	
日本英文学会, 日本英文学会中国四国支部（編集補助委員）, 日本中世英語英文学会, 日本中世英語英文学会西支部, 近代英語協会, 英語史研究会, 英語コーパス学会, 山口大学英語教育研究会（運営委員, 編集委員）, 尾道市立大学日本文学会	